



興亞工業大學ヲ大學令ニ依リ設
立スルノ件

右謹テ裁可ヲ仰ク

昭和十七年五月十三日

内閣總理大臣東條英機



文部第三三號

案起

昭和十七年五月七日

裁可 昭和十七年五月十三日
決定 昭和十七年五月十三日
施行

昭和十七年五月十四日

指令

内閣總理大臣



内閣書記官長



内閣書記官

別紙文部大臣上奏興亞工業大學
ヲ大學令ニ依リ設立スルノ件ハ相當ノ
儀ト認メラルルニ付上裁ヲ經テ左ノ通
指令相成然ルベシ

指令案

興亞工業大學ヲ大學令ニ依リ設立
スルノ件上奏ノ通裁可ヲ經タリ

文 部 省

東專一一九號

財團法人興亞工業大學ニ於テ大學令ニ依リ興亞工業大學ヲ設立スルノ
件

謹而 宸裁ヲ仰ク

昭和十七年五月七日

文部大臣 橋 田 邦



興亞工業大學設立要綱

一、名稱

興亞工業大學

二、目的

大學令ニ依リ工學ノ理論及應用ヲ教授シ並ニ其ノ蘊奥ヲ攻究シ國家ノ指導的人物ヲ養成スルヲ以テ目的トス

三、學部ノ種類及名稱

工學部

(航空學科、冶金學科、工業經營學科)

四、大學豫科及研究科ノ設否

大學豫科及研究科ヲ設ク

五、學則

別紙ノ通

六、學科課程

別紙學則ノ通

七修業年限

學部

三年

大學豫科

三年

研究科

一年以上

八入學資格

學部

本大學豫科修了者

但シ缺員アル場合ニ限り左ノ者ヲ試験ノ上第一學年ニ入學ヲ許スコトアルベシ

高等學校高等科卒業者、大學豫科修了者

大正七年文部省令第三號第二條ニ依リ指定セラレタル者

大學豫科

一 中學校第四學年修了者

研究科

一 高等學校尋常科修了者

二 高等學校高等科入學資格試験合格者

三 文部大臣ニ於テ高等學校高等科入學ニ關シ中學校第四學年修了者ト同等以上ト指定シタル者

四 專門學校入學者檢定試験合格者

五 文部大臣ニ於テ一般ノ專門學校入學ニ關シ中學校卒業者ト同等以上ト指定シタル者

學部卒業者又ハ之ト同等以上ノ學力アル者ニシテ教授會ニ於テ適當ト認メタル者

九學士稱號

工學士

十授業料其ノ他

授業料 實驗費 入學金 入學檢定料

學部	豫科	研究科
二〇〇	一五〇	二〇〇
五〇	(三、三年ノミ)	二〇
二〇		一〇

但シ前記學部ノ入學檢定料ハ本大學豫科修了者ヨリハ徴セズ

二校 地

(一) 位置 東京府南多摩郡町田町大字本町田四〇五〇

(二) 面積 三〇、一八七坪

三校 舍

四、二二六坪五

一學部校舍

一、四九〇、五〇坪

冶金學科

六〇八七五坪

1. 實驗室分析室

二四四四〇坪

2. 教室、教授室

二九三、二五坪

3. 鑄造實驗工場

七、一〇〇坪

航空工學科

四七、一七五坪

二〇坪教室三室、研究室、圖書室其ノ他

二、豫科

工業經營學科

四一〇〇〇坪

二〇坪教室五室、教授室、製圖室、其ノ他

1. 設計製圖室

一〇八〇〇坪

四〇坪製圖室二室、教授室、其ノ他

2. 實驗室

一四七〇〇坪

二〇坪教室三室、教授室、其ノ他

3. 機械工場

八一〇〇坪

二〇坪教室五室、教授室、製圖室、其ノ他

4. 教 室

二八四〇〇坪

二〇坪教室十二室、四四坪教室一室、其ノ他教員室、事務室

5. 物理教室

二〇〇〇坪

6. 物理實驗室

二四〇〇坪

7. 準備室

一二、〇〇坪

8. 化學教室

二〇〇〇坪

9. 化學實驗室

二四〇〇坪

10. 準備室

一二、〇〇坪

學長室、理事長室、會議室等

四講堂 一六三〇〇坪
 五體育館 一八〇〇〇坪
 六寄宿舎 一三一六五〇坪

十三圖書

和書 一二五九九三冊、洋書 二〇八二四冊、計 一四六八一七冊
 内工業ニ關スル和書 五二二八冊、洋書 七一八冊、計 五八四六冊
 尙毎年經常費トシテ相當額ヲ豫算ニ計上シアリ

古學生、生徒定員

第一學年ニ入學許可セシムベキ員數

學部	六〇	專任	三五	兼任	一二五
豫科	二五	專任	一五	兼任	一〇
學部					
豫科					
教員					
學部					
豫科					

十六開設期日

大學豫科 昭和十七年五月
 學部 昭和二十年四月
 研究科 昭和二十三年四月

十七創設豫算表

一、供託金	五〇〇〇〇〇	
一、校舎建築	八五四二三七	一、九六五二三七
一、建物附屬設備	一一〇九〇〇	
一、實驗實習設備	五〇〇〇〇〇	
一、其ノ他ノ資金	一、八五九八六三	一、八五九八六三
計	三、八二五〇〇〇	三、八二五〇〇〇

右年度別支出

一年度 供託金 五〇〇〇〇〇 建築費 一、三六七三〇 附屬設備 一、七四〇〇

文字資料
 昭和十七年五月十五日開設
 一、決定

二年度	建築費 一五三九七〇〇 附屬設備 二〇〇〇〇〇	一七三、九七〇
三年度	建築費 二四二、四一二 附屬設備 三一、五〇〇	二七三、九一二
四年度	建築費 二〇五、六七五 附屬設備 二六、七〇〇 實驗設備 二五〇、〇〇〇	四八五、三七五
五年度	建築費 一一五、四五〇 附屬設備 一五、〇〇〇 實驗設備 二五〇、〇〇〇	三八〇、四五〇
計		一九六五、一三七

尙實驗實習設備ハ五十萬圓ヲ増加シ百萬圓トナス豫定

大基本金供託方法

基本金五十萬圓ハ設立認可後三週間以内ニ左記證券ヲ以テ供託ス

一 國庫債券 千圓券 一〇〇枚

一 森興業株 五拾圓券 四〇〇〇枚

但シ森興業株ハ左表ニ依リ漸次國庫債券ニ納付ス

昭和十八年四月	二十萬圓
昭和十九年四月	十萬圓
昭和二十年四月	十萬圓

十九經費及維持ノ方法

本學ハ授業料、供託金及其ノ他ノ財産ノ利子及收入ヲ以テ維持經營ス

完成年度迄ニ至ル豫算別記ノ通

二十六學 長 小 西 重 直

二十一設立者財團法人興亞工業大學概況（別紙ノ通）

收入ノ部

豫 算 表

費 目	初年度	二年度	三年度	四年度	五年度	六年度
一 供託金利息	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
二 普通財産收入				900	10,000	10,000
三 學校收入	3,500	6,000	8,500	12,000	16,000	20,000
計	4,500	7,000	9,500	13,900	18,000	22,000

支出ノ部

一 給 與	3,000	4,000	5,000	6,000	7,000	8,000
二 研 究 費	1,000	2,000	3,000	4,000	5,000	6,000

圖書費	1400	1000	1000	1000	1000	1000
事務費	1000	1000	1000	1000	1000	1000
機械器具其 他	1000	11150	11000	11000	11000	11000
計	3400	23150	29000	30950	31000	32000

財団法人興亞工業大學概要

- 一、目的 工業ニ關スル教育及研究ヲ以テ目的トス
- 二、名稱 財団法人興亞工業大學
- 三、事業 興亞工業大學ヲ經營ス
- 四、事務所 東京府南多摩郡町田町大字本町田四〇五〇
- 五、役員
 - 理事 五名以上七名以内 一名ヲ理事長トス
 - 監事 二名
 - 評議員 若干名

六、資産

- 基本財産 二、四二四、五三三圓
 - 一、供託金 森興業株 四〇〇〇〇〇 五〇〇〇〇〇
 - 二、土地 國庫債券 一〇〇〇〇〇〇 七五四六七五
 - 三、建物 三〇一八七坪 一六九六五〇

四 附屬設備

九一、三〇〇

五 圖書

一四六八一七冊

四八二、〇九九

普通財産

四、〇二三、五三一圓

一 機械器具標本模型

六九八五三一

二 株 券

一六〇〇、〇〇〇

三 現 金

一七二五、〇〇〇

計

一七二五、〇〇〇

尙將來理事森曉ニ於テ右ノ他二百萬圓ヲ寄附シ五十萬圓ヲ實

驗實習設備ニ充テ百五十萬圓ヲ基金ニ充ツル豫定

七 設立當初ノ役員

理事長

東 郷

重 直

實 芳

理 事

小 西

治 廣

理 事

皆 川

國 芳

理 事

小 原

國 芳

理 事
監 事

森 加 曾

藤 木

俊 實

曉 平 壽

學

則

文

部

省

興亞工業大學學則

第一章 目的、編成、修業年限

第一章 本大學ハ大學令ニ依リ工學ニ關スル理論及應用ヲ教授シ並ニ其ノ蘊奥ヲ政究シ兼テ人格ヲ陶冶シ國家ノ樞要ノ人物ヲ養成スルヲ以テ目的トス

第二章 本大學ニ工學部及研究科ヲ設ケ大學豫科ヲ併置ス

豫科ハ高等普通教育ヲ施スト同時ニ學部ニ入ルニ必要ナル豫備學科ヲ教授ス

第三章 學部ニ航空學科、冶金學科、工業經營學科ヲ置ク

第四章 修業年限ハ豫科三年、學部三年、研究科一年以上トス

第二章 學年、學期、休日

第五條 學年ハ四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

第六條 學年ヲ分チテ三學期トス

第一學期 自四月一日 至 八月三十一日

第二學期 自九月一日 至 十二月三十一日

第三學期 自一月一日 至 三月三十一日

第七條 休日ハ左ノ如シ

一、日曜日、大祭祝日

一、開校記念日

一、春季休業 自四月一日 至 四月十日

一、夏季休業 自七月十一日 至 九月十日

一、冬期休業 自十二月二十六日 至 一月七日

但シ休業日ト雖モ時宜ニ依リ授業、勤勞作業、鍛鍊等

ヲ課スルコトアルヘシ

第八章 學科課程

第一節 學部

第八條 學部ノ學科課程左ノ如シ

航空工學科

必修學科目

學科目	第一學年	第二學年	第三學年
流體力學	三	三	二
航空機理論	四	二	二
航空機構造	三	二	二
航空機沿革史	一	二	二
航空機一般	一	二	二
航空機體構造學	三	二	二
航空機動力學	二	二	二
航空機無線通信學	二	二	二
機械工作法	三	二	二
航空機材料學	二	二	二
設計製圖	二	二	二
計	二八三〇	一一四	一一四
航空機設計製圖		二	二
航空機工作法		二	二
航空發動機工作法		二	二
航空機電氣裝備		二	二
航空發動機構造及設計		二	二
航空機設計製圖及製圖		二	二
航空學計畫及製圖		二	二
航空學實驗		二	二
航空發動機構造及設計		二	二
航空機工場經營並衛生		二	二
計	一一四	一一四	一一四
計	一〇一七	一二四	一二四

選擇學科目

學科目	第一學年	第二學年	第三學年
航空機運用術	二	二	二
航空用附屬機械	二	二	二
航空計測器學	二	二	二
航空物理學	二	二	二
石油探鑛學	二	二	二
電機工學	二	二	二
航空兵器學	二	二	二
航空心理學	二	二	二
航空中航空法學	二	二	二
航空氣象學	二	二	二
航空路安全施設學	二	二	二
航空醫學	二	二	二
冶金學・金相學	二	二	二
機械學・機械工學	二	二	二
法制經濟	二	二	二
工場建築	二	二	二
航空機及發動機整備術	二	二	二
內燃機關工學	二	二	二
熱機關工學	二	二	二
機械工學	二	二	二
應用彈工學	二	二	二
航空機操縱術	二	二	二
計	一一二	一一二	一一二
計	四一四	四一四	四一四

冶金學科

必修學科目

學科目	第一學年	第二學年	第三學年
數學	三	四	二
實驗物理及同實驗學	四	二	二
冶金學	四	二	二
金屬組織學	二	二	二
冶金學	二	二	二
金屬加工學	二	二	二
電氣工學實驗	二	二	二
材料試驗	二	二	二
分析實驗	二	二	二
工場設備	二	二	二
計	二四三	二四二	二四二
計	二四三	二四二	二四二

必修學科目

選
擇
學
科
目

單位	授時	學	科	目
----	----	---	---	---

必修學科目

第一學年		第二學年		第三學年	
學科	單位	學科	單位	學科	單位
目	授時數	目	授時數	目	授時數
國文	每週教	國文	每週教	國文	每週教
英語	每週教	英語	每週教	英語	每週教
數學	每週教	數學	每週教	數學	每週教
物理	每週教	物理	每週教	物理	每週教
化學	每週教	化學	每週教	化學	每週教
生物	每週教	生物	每週教	生物	每週教
歷史	每週教	歷史	每週教	歷史	每週教
地理	每週教	地理	每週教	地理	每週教
音樂	每週教	音樂	每週教	音樂	每週教
美術	每週教	美術	每週教	美術	每週教
勞作	每週教	勞作	每週教	勞作	每週教
體育	每週教	體育	每週教	體育	每週教
衛生	每週教	衛生	每週教	衛生	每週教
社會	每週教	社會	每週教	社會	每週教
公民	每週教	公民	每週教	公民	每週教
宗教	每週教	宗教	每週教	宗教	每週教
其他	每週教	其他	每週教	其他	每週教

選 擇 學 科 目	單 位	授 時 數
學 科 目	學 科	學 科

一單位ハ原則トシテ義ニアリテハ一週一時間、實驗實習製圖ニアリテハ一週二時間トス。
一箇年ニ履修スベキ學科目ハ必修科目ヲ併セテ三十五單位ヲ超ユルコトヲ得ス、但シ右學科目ノ外卒業論文ヲ十五單位トシテ、合計八十五單位ニ合格スルコトヲ要ス。

第九條

試験ハ各學年末ニ其ノ學年内ニ履修セル學科目ニ就キ之行フ、但シ學科目ノ種類ニ依リテハ本條ノ規定ニ拘ラス試験ヲ行フコトアルヘシ

第十條

實驗實習製圖及演習等ノ學科目ニ就キテハ其ノ平常成績ヲ以テ試験ニ代フルコトアルヘシ

第十一條

病氣其ノ他已ムヲ得サル事故ニ因リ試験ヲ受クルコトヲ得サリシ者ニ對シテハ追加試験ヲ行フ、但シ前條ノ考査ヲ以テ試験ニ代ヘタル場合ハコノ限リニアラス

第十二條

學業成績ノ評語ハ優・良・可及不可ノ四種トシ、優・良・可ヲ合格、不可ヲ不合格トス、追加試験ヲ受ケサリシ學科目ハ之ヲ不合格トス

第十三條

卒業試験ハ論文又ハ計畫ニ就キテ隨時之ヲ行フ

第拾四條

卒業試験ヲ受ケントスルモノハ其ノ題目ヲ定メ十箇月以前
ニ學科主任ヲ經テ之ヲ學長ニ申出テ指導教授ノ指定ヲ受ク
ルヲ要ス

第拾五條

二箇年以上在學シ當該學科所屬ノ全必修學科目ヲ併セテ四
十五單位以上ノ學科目試験ニ合格シタルモノハ卒業試験ヲ
受クルコトヲ得

第拾六條

三箇年以上在學シ當該學科所屬ノ全必修學科目ヲ含ミ五十
五單位以上ノ學科目試験ニ合格シ且卒業試験ニ合格シタル
モノヲ卒業トス

第二節 豫 科

第拾七條

豫科學科目及毎週授業時數左ノ如シ

學 科 目	第一學年	第二學年	第三學年
修 身	一	一	一
國漢文及作文	二	二	
第一外國語	八	六	六
第二外國語	四	四	四
數 學	六	五	(三) 三
物 理		三	五
化 學	二	三	四
植物及動物	二		
礦物及地質		二	
心 理	二		
法制及經濟		三	三

第拾八條 各學期末ニ其ノ學期間ニ履修セル學科目ノ試験ヲ行フ
第拾九條 各學期末試験 ハ左ノ期日前ニハ施行セサルモノトス

第一學期 七月一日

第二學期 十二月十日

第三學期 三月五日

第貳拾條 各學科目ノ日課成績及學期末試験ノ成績ニヨリテ學期評點ヲ定ム

第貳拾壹條 教員ノ必要ト認メ施行シタル臨時試験ノ評點ハ前條ノ評點中ニ算入スルモノトス

第貳拾貳條 各學科目ノ學期評點ヲ平均シテ其ノ學年評點ヲ定ム
但シ全學年ニ通セサル學科目ハ履修セル學期ノ評點ヲ平均シテ其ノ學年ノ評點トス

第貳拾參條 學業成績ノ評語ハ優・良・可及不可ノ四種トシ優・良・可ヲ合格・不可ヲ不合格トス

第貳拾四條 各學科目ノ學年評點滿點ノ六割以上ニシテ且四割以下ノ學科目ナキモノヲ及第トス、但シ點數ハ公示セサルモノトス
第貳拾五條 各學科目ノ評點ハ十點ヲ以テ滿點トス

第貳拾六條 正當ノ事由ナクシテ出席常ナラサル者ハ受験資格ヲ失フコトアルヘシ

第貳拾七條 病氣又ハ正當ノ事由ノタメ學期末試験ニ缺席シタル者ニシテ其ノ旨届出アリタル者ニ限り左記ノ通り追加試験ヲ施行ス

第一學期 缺席者ニハ十月中

第二學期 缺席者ニハ翌年二月中

第三學期 缺席者ニハ五月中

第貳拾八條

追加試験ニ缺席シタル者ハ零點トシテ之ヲ取扱ヒ各學期評點ヲ平均シテ學年評點ヲ定ム、但シ成績決定迄ハ未定ノ儘原級ニ止ムルモノトス

第貳拾九條

原級ニ止マリタル者ハ次學年ノ始ヨリ其ノ級ノ全學科目ヲ再修セシムルモノトス

第參拾條

引續キ二回原級ニ止マリタル者ニハ退學ヲ命スルコトアルヘシ

第四章 入學、休學、退學

第參拾壹條

入學ノ期ハ學年ノ始メ一回トス

第參拾貳條

學部第一學年ニ入學スルコトヲ得ル者ハ本大學豫科ヲ修了シタルモノトス

但シ缺員アル場合ニ限り左ノ者ヲ試験ノ上第一學年ニ入學ヲ許スコトアルヘシ

高等學校高等科卒業者、他ノ大學豫科修了者、大正七年文部省令第三號第二條第二號ニ依リ指定セラレタル者
學部第一學年入學試験學科目

英語、獨（佛）語、物理學、化學、數學

第參拾參條

豫科第一學年ニ入學スルコトヲ得ル者左ノ如シ

中學校第四學年修了者、高等學校尋常科修了者、高等學校高等科入學資格試験合格者、文部大臣ニ於テ高等學校高等科ノ入學ニ關シ中學校第四學年修了者ト同等以上ト指定シタル者、專門學校入學者檢定試験合格者、文部大臣ニ於テ一般ノ專門學校ノ入學ニ關シ中等學校卒業者ト同等以上ト

指定シタル者

第參拾四條 豫科第一學年ニ入學セントスル者ニハ選拔試験ヲ行フモノトス

選拔試験ハ學科、体格及人物考査トシ、學科ハ中學校第四學年修了程度ニ依リ行フ

第參拾五條 入學志願書ハ所定ノ入學志願書ヲ差出スヘシ、入學志願書

ニハ志望學科ヲ記載シ履歷書、第參拾參條ニ規定スル資格證明書、成績證明書及寫眞ヲ添フヘシ

第參拾六條 豫科第一學年ニ入學シタル者ハ其ノ志望學科ニ隨ヒ學部ヘ入學スルモノトス

第參拾七條 一旦退學セシ者再入學ノ場合ニハ一箇年以内ニ限り無試験ニテ原級ニ編入スルコトアルヘシ、但シ第一學期ニ在リテハ四月八日迄、第二學期ニ在リテハ九月五日迄ニ出願スルコトヲ要ス

第參拾八條 入學ノ許可ヲ得タル者ハ規定ノ入學金ヲ納ムヘシ、但シ本大學豫科ヲ修了シタル者ハ學部入學金ヲ納ムルニ及ハス

第參拾九條 入學ノ許可ヲ得タル者ハ所定ノ在學證書ヲ差出スヘシ保證人ハ父兄若クハ近親タルヘシ、但シ遠隔ノ地ニ在ル者ハ別ニ本學所在地附近ニテ一家ヲ立ツル丁年以上ノ男子ニシテ本學ノ通知ニ接シ直ニ登校シ得ヘキ副保證人ヲ置クヘシ

第四拾條 保證人姓名ヲ改メ又ハ轉居シタル時ハ直ニ其ノ旨届出ツヘシ
死亡其ノ他ノ事由ニヨリ保證人ヲ改メタルトキハ更ニ在學證書ヲ差出スヘシ

第四拾壹條

缺席者ハ保證人連署ニテ届出ツヘシ、病氣ノ爲缺席七日以上ニ亘ル場合ハ醫師ノ診斷書ヲ添フヘシ

第四拾貳條

疾病ノタメ三箇月以上登校スルコト能ハサル場合ニハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ保證人連署ニテ願出テ其ノ學年間休學スルコトヲ得

第四拾參條

兵役ニ服スル場合ハ保證人連署ニテ届出ツヘシ

第四拾四條

正當ノ理由ナク一箇月以上引續キ缺席スルトキハ除名ス
退學セントスル者ハ保證人連署ニテ願出ツヘシ

第五章 卒業、學士稱號

第四拾五條

學部ニ三箇年以上在學シ所定ノ試験ニ合格シタル者ニハ卒業證書ヲ授與ス

第四拾六條

學部ヲ卒業シタル者ハ工學士ト稱スルコトヲ得

第六章 入學金、試験料、授業料其ノ他

第四拾七條

入學金ハ金貳拾圓トス

第四拾八條

入學檢定料ハ金拾圓トス、但シ一旦納入セル檢定料ハ受験ノ有無ニ拘ラス一切返却セサルモノトス

第四拾九條

追加試験料左ノ如シ

一、豫科追加試験料ヲ金五圓トス

一、學部追加試験料ヲ金五圓トス

第五拾條

學部ノ授業料ヲ一箇年金貳百圓、豫科ノ授業料ヲ一箇年金百五拾圓トシ學年當初十日以内ニ納入スルモノトス、但シ二期ニ分チテ四月・十月ニ分納スルコトヲ得

第五拾壹條

學部ノ實驗費ハ一箇年金五拾圓、豫科ノ實驗費ヲ第二學年第三學年ニ於テ各一箇年金貳拾圓トシ學年當初十日以内ニ

納入スルモノトス

第五拾貳條

學期ノ中途ニ於テ退學スルコトアルモ授業料、實驗費ハ一切返却セサルモノトス

第五拾參條

休學中ト雖モ授業料ハ之ヲ納ムルモノトス、但シ兵役ニ服スル爲メ休學シタル者ニハ之ヲ徵收セス

第七章 懲戒

第五拾四條

懲戒ハ譴責、減點、退學ノ四種トス

第五拾五條

左ノ各項ノ一ニ該當スル者ハ之ヲ懲戒ス

一、本學ノ秩序ヲ紊スル者

一、教職員ノ命令ニ逆ヒ又ハ器具ヲ汚損シ、暴行ヲナシタル者

一、下品行ニシテ本學ノ面目ヲ汚ス者

一、怠惰ニシテ學業ヲ勉メサル者

一、出席常ナラサル者

第八章 外國人入學

第五拾六條

第參拾貳條及第參拾參條ニ依ル入學資格ナキ外國人ニシテ外務省在外公館又ハ本邦所在ノ外國公館ノ紹介アル者ハ缺員アル場合ニ限り試験ノ上入學ヲ許スコトアルヘシ
但シ學部ノ入學ハ第一學年ニ限ル

第九章 聽講生

第五拾七條

學部ニ於テ一學科目又ハ數學科目ノ聽講ヲ願出ツル者アルトキハ學生ノ學習ニ妨ナキ場合ニ限り聽講生トシテ入學ヲ許スコトアルヘシ

第五拾八條

聽講生ハ志望學科目ヲ學習シ得ルニ足ル學力アリト認メタ

ル者ニ限ル

第五拾九條

聽講生ノ許可ヲ得タル者ハ所定ノ在學證書ヲ差出スヘシ

第六拾條

聽講生ハ正科生ト同額ノ授業料ヲ納ムヘシ、尙研究ニ要スル實驗費用ハ別ニ之ヲ納ムルモノトス

第六拾壹條

聽講生ハ正科生ト同シク一般ノ規則ヲ遵守スヘキモノトス

第拾章 委託生

第六拾貳條

官廳公共團體及其他ヨリ一箇年以上ヲ在學期間トシ履習スヘキ學科目ヲ定メ入學ヲ願出ツル者アルトキハ學生ノ學修ニ妨ケナキ場合ニ限り詮議ノ上之ヲ許スコトアルヘシ

第六拾參條

委託生ハ其ノ學修セシ學科目ニ就キ試験ヲ受クルコトヲ得試験ニ合格シタル者ニハ願出ニヨリ證明書ヲ附與ス

第六拾四條

委託生ノ授業料及實驗實習等ニ要スル費用ハ委託者ヨリ之ヲ納付スルモノトス

第拾壹章 研究科

第六拾五條

學部卒業者又ハ之ト同等以上ノ學力アル者ニシテ教授會ニ於テ適當ト認メタル者ハ研究科ニ入り學術ヲ研究スルコトヲ得

第六拾六條

研究科ニ入ラントスル者ハ研究科目、履歷書、戶籍謄本ヲ具シ願出ツヘシ

第六拾七條

研究科學生ハ研究ニ關シ教授ノ指導ヲ受クヘシ

第六拾八條

研究科學生ハ毎年一回以上其ノ研究ノ狀態及成績ヲ記載シタル報告書ヲ指導教授ヲ經テ學長ニ提出スヘシ

第六拾九條

研究科學生ニシテ二箇年以上在學シタル者ハ研究ノ成績ヲ具シテ學位ヲ請求スルコトヲ得

第七拾條

研究科學生ハ在學料トシテ一學年金百七拾圓ヲ每學年ノ始
メニ納ムヘシ

別ニ各科ノ定ムル研究費ヲ徴收ス

履 歴 書

本 籍 鹿兒島縣贈那財部町下財部二二八〇番地

現住所 東京市麻布區筈町八番地

從四位勳三等農學博士 東 郷 實

鹿兒島縣士族 明治十四年十二月十二日生

一明治三十八年七月 札幌農學校本科卒業

一明治三十九年二月 彰化廳殖産事務ヲ囑託ス 臺灣總督府

一明治三十九年六月 任彰化廳技師兼南投廳技師斗六廳技師 内閣

一明治四十年六月 任臺灣總督府技師 同

一明治四十二年二月 御用有之獨逸國へ被差遣 同

一明治四十三年六月 御用有之英國佛國及伊國へ出張被仰付 同

明治四十四年九月	丁抹國米國及布哇へ出張被仰付	同
大正元年十月	比律賓へ出張ヲ命ス	同
大正八年七月	農學博士ノ學位ヲ受ク	
大正十年五月	總督官房調査課長ヲ命ス	臺灣總督府
大正十二年十二月	勅任官ヲ以テ待遇セラル	内閣
大正十三年二月	敘高等官二等（兼官）	同
大正十三年二月	依願免本官並兼官	同
大正十三年三月	敘從四位	官内省
大正十三年三月	敘勳四等授瑞寶章	賞勳局
大正十三年五月	衆議院議員ニ當選以來當選六回今日ニ及ブ	
昭和七年五月十四日	任遞信參與官	内閣
昭和七年五月二十七日	依願免本官	同

昭和七年六月	任文部政務次官	内閣
昭和七年七月九日	敘勳三等授瑞寶章	賞勳局
昭和九年四月	授旭日中綬章	同
昭和九年七月	依願免本官	内閣
昭和十四年十二月	農林省食糧局顧問（現在食糧管理局）	

履 歴 書

原 籍 福島縣南會津郡田島町大字田島字東町甲貳千八百六拾七番地
現住所 東京市世田ヶ谷區成城町

福島縣士族

小 西 重 直

明治八年一月十五日生

一明治三四年七月 東京帝國大學文科大学哲學科卒業

卒業ノ際御賜ノ銀時計拜受

一同 年九月 教育學研究ノ爲メ滿三ヶ年間獨、英兩

國へ留學ヲ命ズ

一明治三八年六月 任廣島高等師範學校教授

文 部 省
内 閣

敘高等官六等

一明治三八年八月 敘正七位

一明治四一年九月 敘從六位

一明治四三年七月 任文部省視學官

敘高等官六等

一 大正元年九月 任第七高等學校造士館長兼

第七高等學校造士館教授

敘高等官五等

一 大正二年八月 任京都帝國大學文科大学教授

敘高等官五等

教育學校授法講座擔任ヲ命ズ

一 大正二年十二月 文學博士ノ學位ヲ受ク

文部大臣

文部省

内閣

敘高等官四等

敘正六位

一 大正五年十月 敘高等官三等

一 同 年十一月 敘從五位

内閣

一 大正八年五月 敘高等官二等

一 大正八年六月 敘正五位

内閣

一 大正十年五月 歐米各國へ出張ヲ命ズ

文部省

一 大正十二年九月 敘勳三等授瑞寶章

賞勳局

一 大正十三年六月 敘高等官一等

内閣

一 大正十三年九月 敘從四位

官内省

一 昭和二年四月 補京都帝國大學文學部長

文部省

一 昭和四年十月 敘正四位

官内省

昭和五年十月	敘勳二等授瑞寶章	賞勳局
昭和八年三月	任京都帝國大學總長	
	敘高等官一等	内閣
昭和八年六月	依願免本官	内閣
昭和八年七月	敘從三位	宮内省
昭和十一年	教學刷新評議會委員被仰付	
昭和十二年五月	文教審議會委員被仰付	内閣
昭和十四年十月	聖訓ノ述義ニ關スル協議會委員	
	ヲ囑託ス	文部省
昭和十六年五月	教科用圖書調查委員被仰付	内閣

12 皇太子御印ナカモトヤ印行

明治三十六年七月	東京帝國大學法科大學卒業（佛法）	
明治三十六年八月	司法官試補ヲ命ズ	司法省
明治三十七年六月	國際法顧問 第四軍司令部附ヲ命ス	陸軍省
明治三十八年十月	大阪區裁判所檢事代理ヲ命ス	司法省
明治三十九年四月	敘勳六等授瑞寶章	賞勳局
履歴書 本籍地 麻布區富士見町四十二番地 現住所 麻布區宮村町四十二番地 士族 皆川治廣 明治八年三月七日生		

明治三十九年十二月

任檢事

内閣

明治四十年二月

敘高等官七等

内閣

明治四十一年八月

敘從七位

内閣

明治四十一年十二月

敘正七位

内閣

明治四十三年六月

佛獨兩國ニ於ケル檢察事務ノ取調ヲ囑託ス

司法省

明治四十三年七月

ブラツセル市ニ開會セル萬國刑法會議參會ノ爲渡歐引續キ佛國ニ滞在シ佛獨伯瑞各地ノ大學ニ留學ス

司法省

大正二年四月

任司法書記官

内閣

大正二年五月

敘高等官六等

司法省

大正二年十二月

大臣官房職員課長ヲ命ズ

司法省

大正三年二月

敘從六位

内閣

大正三年五月

敘勳五等授瑞寶章

賞勳局

大正四年九月

大禮使典儀官被仰付

内閣

大正四年十一月

授雙光旭日章

賞勳局

大正五年十二月

敘高等官四等

内閣

大正六年一月

敘正六位

内閣

大正六年六月

敘高等官三等

内閣

大正八年七月

敘從五位

官内省

大正十年三月

司法省所管事務政府委員被仰付

内閣

同 年五月

敘勳四等授瑞寶章

賞勳局

大正十	年六月	大臣官房調査課長兼務ヲ命ス	司法省
大正十	年九月	任檢事	
大正十	年十月	敘高等官二等	内閣
大正十	年十月	補大審院檢事	司法省
大正十一	年五月	敘正五位	官内省
大正十一	年五月	司法省人事局長	内閣
大正十一	年五月	敘高等官二等	内閣
大正十二	年十二月	補廣島控訴院檢事長	司法省
大正十三	年四月	歐米各國へ出張ヲ命ズ	
大正十三	年十月	敘高等官一等	内閣
大正十三	年十二月	敘勳三等授瑞寶章	賞勳局
同	年十二月	敘從四位	官内省

昭和二	年十月	補名古屋控訴院檢事長	司法省
昭和三	年四月	授旭日中綬章	賞勳局
昭和四	年十二月	敘正四位	官内省
昭和六	年十二月	敘勳二等授瑞寶章	賞勳局
昭和六	年十二月	任司法次官	内閣
同		敘高等官一等	内閣
昭和九	年七月	任判事	内閣
昭和九	年七月	補東京控訴院長	司法省
昭和二年勅令第三四八號ニ依リ親任待遇(朱書)			
昭和九	年八月	敘從三位	官内省
昭和十二	年十二月	退職ヲ命ズ	司法省
昭和十二	年十二月	敘正三位	

右之通相違無之候也

昭和十六年十二月六日

皆川治廣

履 歴 書

本 籍 鹿兒島縣川邊郡西南方村久志貳千四百參拾番地

現住所 東京府南多摩郡町田町字玉川學園

士 族

小 原 國 芳

明治二十年七月十日生

學 歴

大正二年三月 廣島高等師範學校英語科卒業

大正七年七月 京都帝國大學文學部哲學科卒業

任 免

大正二年三月 香川縣師範學校教諭兼訓導拜命

大正七年八月 廣島高等師範學校教諭兼訓導拜命

「大正八年十二月	私立成城小學校兼主事トナル
「大正十五年四月	成城高等學校教授兼主事トナル
「昭和三年四月	成城高等學校高等女學校成城小學校幼稚園長トナル
「昭和四年	財團法人玉川學園創立理事トナル
「昭和四年四月	玉川中學校長トナル
「昭和五年四月	玉川高等女學校長及初等部校長トナル
「昭和十四年三月	玉川塾（専門部）長トナル
兵 役	
六週間現役兵	
右之通相違無之候也	

12 富士権印 オカモトヤ印行

昭和十六年 月 日

右

小 原 國 芳

履 歴 書

本 籍 千葉縣夷隅郡興津町守谷九七番地
現住所 東京市麴町區紀尾井町六番地

戸 主

森 曉

明治四十年六月十九日生

學 歴

一 大正十五年三月 東京府立第五中學校卒業

一 昭和六年三月 成城高等學校ヲ卒業

一 昭和九年三月 京都帝國大學文學部卒業

職 歴

一 昭和七年四月 昭和電工株式會社入社同社廣田工場、本社營業部

及横濱工場ニ勤務シ其ノ間昭和九年四月一十九年九月
月歐米ヲ視察セリ

昭和九年三月 日本火工株式會社取締役ニ就任

昭和九年四月 森興業株式會社、昭和火藥株式會社兩社ノ取締役
ニ就任ス

昭和十一年十月 昭和電工株式會社退社

昭和十一年十月 日本火工株式會社代表取締役ニ就任

昭和十二年八月 日本鍛工株式會社取締役ニ就任

昭和十三年一月 日本火工株式會社川崎工場長ヲ兼務ス

昭和十四年四月 工場長兼務ヲ辭ス

昭和十五年一月 大阪若山鐵工株式會社、大江山ニツケル工業株式
會社兩社取締役ニ就任ス

昭和十五年三月 勝山鍛工株式會社取締役及代表取締役ニ就任ス

昭和十五年七月 大江山ニツケル工業株式會社代表取締役ニ就任ス

昭和十五年九月 昭和火藥株式會社代表取締役ニ就任ス

昭和十五年十月 東信電氣株式會社取締役ニ就任ス

昭和十五年十一月 中央電氣工業株式會社取締役ニ就任ス

昭和十六年三月 森興業株式會社代表取締役ニ就任ス

昭和十六年四月 日本火藥共販株式會社取締役ニ就任ス

昭和十六年六月 昭和航空計器株式會社監査役ニ就任ス

賞 罰

一 無シ

兵 役

一 國民兵役ニ編入

右之通り相違無之候也

昭和十六年十一月二十五日

右

森

曉

履 歴 書

本 籍 山形縣南置賜郡窪田村大字中田貳百七拾七番地

現住所 神奈川縣横濱市港北區奈良町貳千七百貳番地

平民 戸主 加 藤 俊 平

明治拾四年壹月五日生

一 學 歴

明治四拾參年七月東京帝國大學法科大學獨逸法科卒業

ニ 其他ノ事項

明治四拾四年九月東洋拓殖株式會社ニ入社、大正七年參月參事ヲ命セラレ同拾壹年五月以後同社沙里院支店長、大邱支店長、東京本社秘書役、釜山支店長、京城支店長、東京本社貸付課長等ニ歷任シ昭和六年五月休職ヲ命セラレ南洋興發株式會社ニ入社取締役ニ就任、同七年拾

貳月取締役ヲ辭シ更ニ同社常任監査役ニ就任ス
昭和拾年六月一身上ノ都合ニ依リ右監査役ヲ辭シ同時ニ東洋拓殖株式
會社ヲ退社ス

三賞 罰

無 シ

右之通り相違無之候也

昭和拾六年拾壹月 日

右

加 藤 俊 平

履 歷 書

原 籍 鹿兒島縣川内市隅之城町西手ノ三五〇番地

現住所 東京市澁谷區代々木初台町六二九番地

曾 木 實 壽

明治十六年二月十日生

學 業

一明治四十一年六月 通信官吏練習所技術科卒業

一明治四十五年七月 京都法政大學法律科卒業

職 業

一明治四十一年六月 通信技手拜命通信技師 任

一 大 正 九 年 三 月 退 官

一 大 正 九 年 三 月 羊毛整製株式會社愛知工場長ヲ經テ常務取締役

昭和十三年四月退社

昭和十三年三月

福壽鑛業株式會社取締役社長就任

右之通り

昭和十六年十一月

會 木 實 壽

12 會木實壽 昭和十六年十一月

(參照)

大學令

大正七年十二月六日
勅令第三百八十八號

(抄)

第一條 大學ハ國家ニ須要ナル學術ノ理論及應用ヲ教授シ並其ノ蘊
奥ヲ攻究スルヲ以テ目的トシ兼テ人格ノ陶冶及國家思想ノ涵養ニ
留意スヘキモノトス

第二條 大學ニハ數個ノ學部ヲ置クヲ常例トス但シ特別ノ必要アル
場合ニ於テハ單ニ一個ノ學部ヲ置クモノヲ以テ一大學ト爲スコト
ヲ得

學部ハ法學、醫學、工學、文學、理學、農學、經濟學及商學ノ各
部トス

特別ノ必要アル場合ニ於テ實質及規模一學部ヲ構成スルニ適スル

トキハ前項ノ學部ヲ分合シテ學部ヲ設クルコトヲ得

第三條 學部ニハ研究科ヲ置クヘシ

數個ノ學部ヲ置キタル大學ニ於テハ研究科間ノ聯絡協調ヲ期スル爲之ヲ綜合シテ大學院ヲ設クルコトヲ得

第四條 大學ハ帝國大學其ノ他官立ノモノノ外本令ノ規定ニ依リ公立又ハ私立ト爲スコトヲ得

第五條 公立大學ハ特別ノ必要アル場合ニ於テ北海道、府縣及市ニ限り之ヲ設立スルコトヲ得

第六條 私立大學ハ財團法人タルコトヲ要ス但シ特別ノ必要ニ因リ學校經營ノミヲ目的トスル財團法人力其ノ事業トシテ之ヲ設立スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第七條 前條ノ財團法人ハ大學ニ必要ナル設備又ハ之ニ要スル資金及

少クトモ大學ヲ維持スルニ足ルヘキ收入ヲ生スル基本財産ヲ有スルコトヲ要ス

基本財産中前項ニ該當スルモノハ現金又ハ國債證券其ノ他文部大臣ノ定ムル有價證券トシ之ヲ供託スヘシ

第八條 公立及私立ノ大學ノ設立廢止ハ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ學部ノ設置廢止亦同シ

前項ノ認可ハ文部大臣ニ於テ勅裁ヲ請フヘシ

第九條 學部ニ入學スルコトヲ得ル者ハ當該大學豫科ヲ修了シタル者、高等學校高等科ヲ卒リタル者又ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ之ト同等以トノ學力アリト認めラレタル者トス

入學ノ順位ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第十條 學部ニ三年以上在學シ一定ノ試験ヲ受ケ之ニ合格シタル者ハ學士ト稱スルコトヲ得

前項ノ在學年限ハ醫學ヲ修ムル者ニ在リテハ四年以上トス

第十一條 研究科ニ入ルコトヲ得ル者ハ醫學ヲ修ムル者ニ在リテハ四年以上其ノ他ノ者ニ在リテハ三年以上當該學部ニ在學シ其ノ他相當ノ學力ヲ具ヘタル者ニシテ當該學部ニ於テ適當ト認メタルモノトス

第十二條 大學ニハ特別ノ必要アル場合ニ於テ豫科ヲ置クコトヲ得大學豫科ニ於テハ高等學校高等科ノ程度ニ依リ高等普通教育ヲ爲スヘシ

第十三條 大學豫科ノ修業年限ハ三年又ハ二年トス

修業年限三年ノ大學豫科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ中學校第四學年

ヲ修了シタル者又ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ之ト同等以上ノ學力アリト認メラレタル者トス

修業年限二年ノ大學豫科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ中學校卒業シタル者又ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ之ト同等以上ノ學力アリト認メラレタル者トス

第十七條 公立及私立ノ大學ニハ相當員數ノ專任教員ヲ置クヘシ

●大正七年文部省令第三號（高等試験令第七條及第八條ニ關スル件）

大正七年二月二十八日

文部省令第三號

（抄）

第二條 左ノ者ハ高等試験令第八條ニ依リ高等學校高等科ヲ卒リ若

ハ大學豫科ヲ修了シタル者ト同等以上ト認ム

一 大學學部ニ學生トシテ入學シ現ニ在學スル者又ハ卒業シ若ハ
學士試験ニ合格シタル者

二 文部大臣ニ於テ高等學校高等科若ハ大學豫科ト同等以上ト指
定シタル學校ヲ卒業シタル者

文 部 省

東專一一一九號

興亞工業大學設立ノ件

右上奏書及進達候也

昭和十七年五月七日

文部大臣 橋 田 邦

内閣總理大臣 東 條 英 機 殿



文甲三三